

山 口 市 中 央 消 防 署
整 備 基 本 計 画

令和6年1月

山口市消防本部

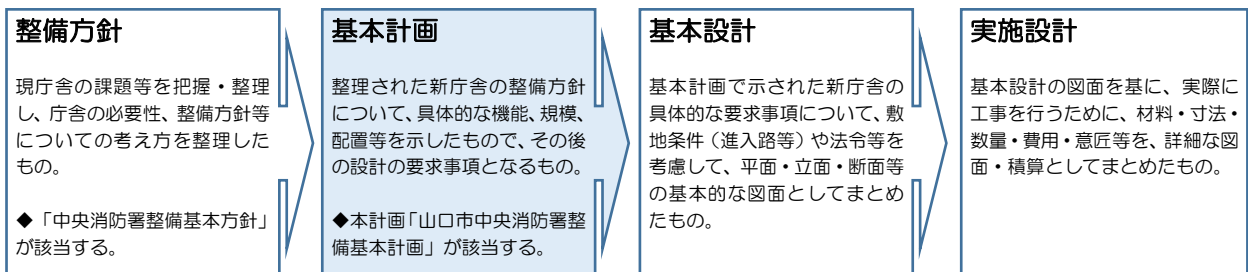
はじめに

本市では、市民の皆様が安全安心で快適に暮らせるまちの実現を目指し、消防・救急体制の更なる充実や災害対策機能の強化等の観点から、通信指令室（通信指令センター）を含む消防本部機能を新本庁舎に集約するかたちで整備を進めています。また、新本庁舎内に設置する「山口県央消防指令センター」については、山口県央連携都市圏域の本市、萩市、防府市の3市共同により、令和7年度の消防通信指令業務の共同運用開始に向けて準備を進めているところです。

この集約に伴い、現消防庁舎には中央消防署機能が残ることとなります。こうした中、中央消防署は、中心市街地や多くの住宅密集地を管轄しており、専門的な技術を要する特殊な救助事案に出場する「特別救助隊」を編成するなど、本市の消防署所の中心的な役割を担っています。一方で、建築後48年が経過し、建物や設備の老朽化をはじめ、緊急車両の大型化に伴う車庫スペースの狭隘化など多くの課題を抱えている状況です。

こうした状況を踏まえ、中央消防署の機能を十分に発揮できる庁舎の建設を目指して「中央消防署整備基本方針」を令和4年11月に策定し、また、「第二次山口市総合計画後期基本計画」の重点プロジェクトの一つである「元気な県都づくり」の取組として「中央消防署の整備推進」を位置付けたところです。

本計画は、基本方針で掲げた「施設整備の方向性」や「施設整備の考え方」について、今後の基本設計や実施設計に反映させていくことを目的として、中央消防署庁舎が抱える様々な課題等について、消防本部内に設置した整備検討委員会・作業部会や関係部局と検討・協議を行い、適切な機能・規模、平面ゾーニングや配置ゾーニング、諸室構成などを整理したものであり、今後は本書に基づき、中央消防署整備に向けた具体的な取組を進めます。



目 次

1	中央消防署の現状	
(1)	現消防庁舎の周辺	1
(2)	敷地概要	1
(3)	建物概要	1
(4)	火災・救急事案の発生状況等	3
2	中央消防署の課題	
(1)	救急出場件数の推移	5
(2)	施設の老朽化・狭隘化	5
(3)	社会情勢と環境変化	5
(4)	急傾斜地対策	6
(5)	防災教育施設としてのニーズの高まり	6
3	基本方針	
(1)	施設整備の方向性	6
(2)	施設整備の考え方	7
4	庁舎規模及び配置	
(1)	整備に係る基本条件	8
(2)	中央消防署庁舎の主な機能	10
(3)	必要諸室面積	18
5	配置ゾーニング計画	
	敷地ゾーニング	19
6	平面ゾーニング計画	
(1)	庁舎1階平面図	20
(2)	庁舎2階平面図	21
(3)	庁舎3階平面図	22
7	想定される整備事業費及び事業スケジュール	
(1)	整備事業費	23
(2)	事業スケジュール	23

1 中央消防署の現状

(1) 現消防庁舎の周辺

中央消防署は、新本庁舎に隣接し「山口市都市核づくりビジョン」における山口都市核のゾーニングとして設定されている各種行政機関や教育文化施設等の機能集積を図る『亀山周辺ゾーン』内に立地しています。また、亀山周辺ゾーンの東側には数多くの歴史文化資源が集積した『大内文化ゾーン』が、南側にはアーケード街を中心に小売店等が集積し、県内でも有数の規模を誇る商店街がある『中心商店街ゾーン』が、西側には山口情報芸術センターや中央図書館等の情報、文化、教育機能が集積した『情報・文化ゾーン』があり、中央消防署はこうした都市機能を形成する山口都市核の一角に位置しています。



(2) 敷地概要

- ・所在地 山口市亀山町2番1号
- ・敷地面積 2,538.49㎡
- ・用途地域 近隣商業地域
- ・容積率 200%
- ・建ぺい率 80%
- ・接面道路 市道黄金町野田1号線

(3) 建物概要

中央消防署は、消防本部とともに昭和50年7月に山口市役所本庁舎（亀山町2番1号）隣に新築移転後、平成7年12月に消防庁舎増築を行うなど、敷地内に消防本部、中央消防署、通信指令室（通信指令センター）及び訓練棟が立地しています。

■庁舎の竣工から現在まで

年別	経過内容	備考
昭和50年7月	消防本部・中央消防署竣工	現在地に新築移転
平成7年12月	中央消防署増築	
平成11年3月	通信指令室竣工	鉄骨造2階建 346.74 m ²
平成26年	消防本部耐震化	
平成27年3月	訓練棟竣工	鉄骨造3階建 157.74 m ²

■庁舎

【消防本部・中央消防署】

- ・竣工年 昭和50年7月（平成7年増築）
- ・減価償却耐用年数（法定50年）48年経過（令和5年12月1日現在）
- ・面積 敷地面積 2,538.49 m²
延床面積 1,698.31 m²
- ・大規模改修実施状況 未実施
- ・耐震改修実施状況 実施済（平成26年）
- ・構造 鉄筋コンクリート・一部鉄骨（耐火）造3階建
- ・配置消防車両の状況（台）

消防本部		中央消防署	
広報車（本部・防火・婦人防火）	3	消防ポンプ自動車	3
本部車（1号・2号）	2	化学消防ポンプ自動車	1
査察車（1号・2号）	2	救助工作車	1
団本部1号車	1	はしご付消防自動車	1
救急普及啓発1号車	1	高規格救急自動車	3
機動連絡車（指揮車）	1	連絡車・積載車・広報車	3
マイクロ車	1	資材搬送車（林野・水難）	2
高規格救急自動車（予備2号）	1		

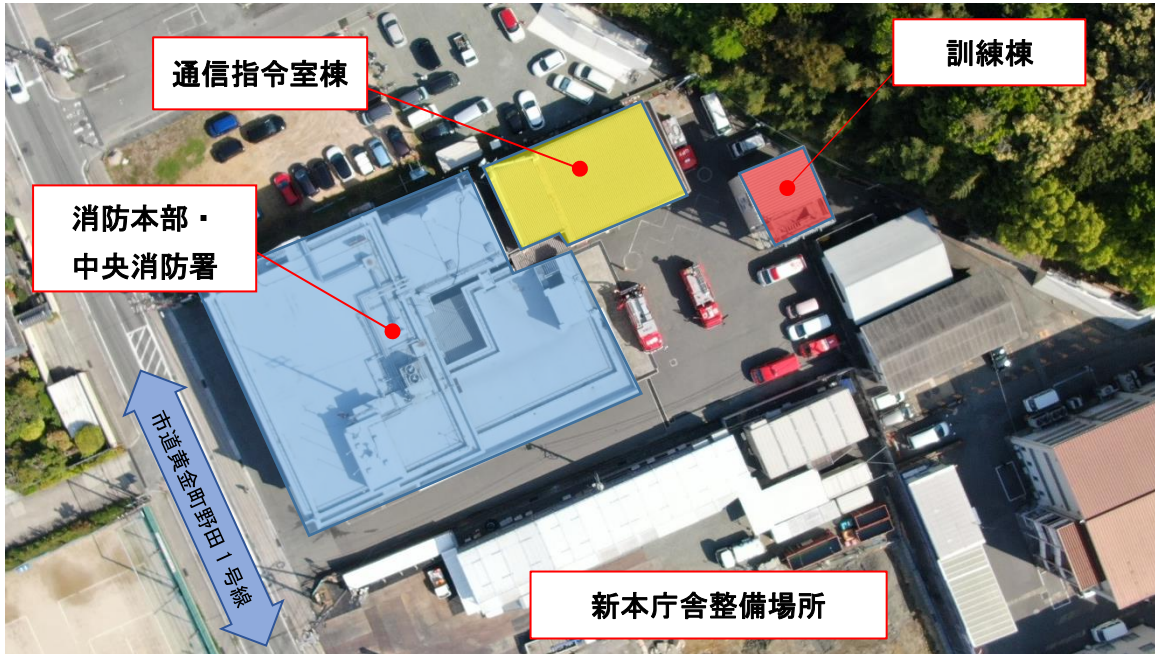
- ・中央消防署職員数 64名（令和5年4月1日現在）
署長1名、査察担当4名、活動支援担当2名、
交替制勤務（中隊長、副中隊長、警防小隊、特別救助小隊、救急小隊）
57名

【通信指令室（通信指令センター）】

- ・竣工年 平成11年3月
- ・面積 延床面積 346.74 m²
- ・構造 鉄骨造2階建

【訓練棟】

- ・ 竣工年 平成27年3月
- ・ 面積 延床面積 157.74㎡
- ・ 構造 鉄骨造3階建

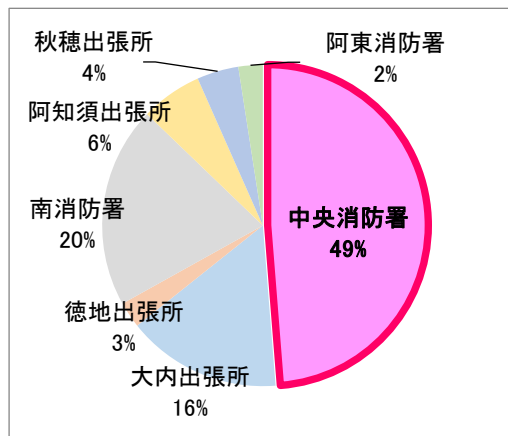


(4) 火災・救急事案の発生状況等

① 担当人口

次の図表は、本市7消防署所の担当人口を示したものです。本市中心市街地を管轄している中央消防署1施設で総人口の約半数を担当しています。また、中央消防署と大内出張所の2施設で65%の人口を担当しています。

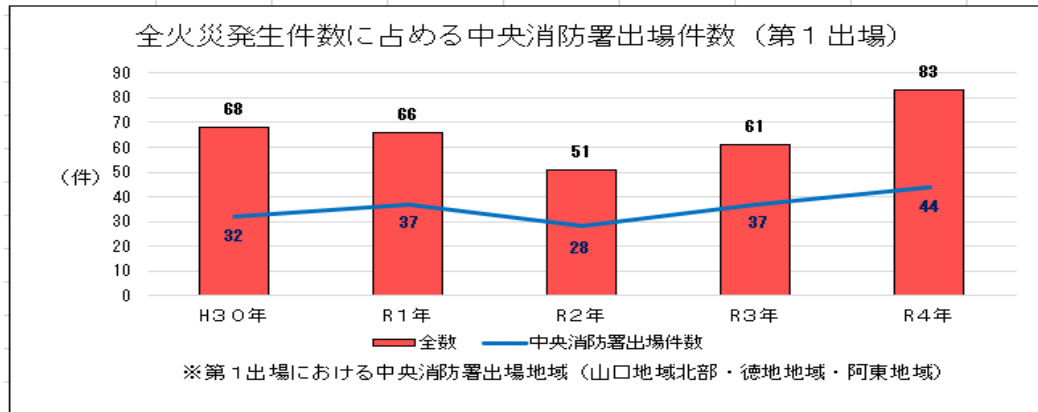
「消防署所担当人口及び割合（令和5年4月推計人口）」



消防署所	人口
中央消防署	93,873
大内出張所	29,658
徳地出張所	4,718
南消防署	38,811
阿知須出張所	11,778
秋穂出張所	7,715
阿東消防署	4,428
合計	190,981

② 火災出場件数

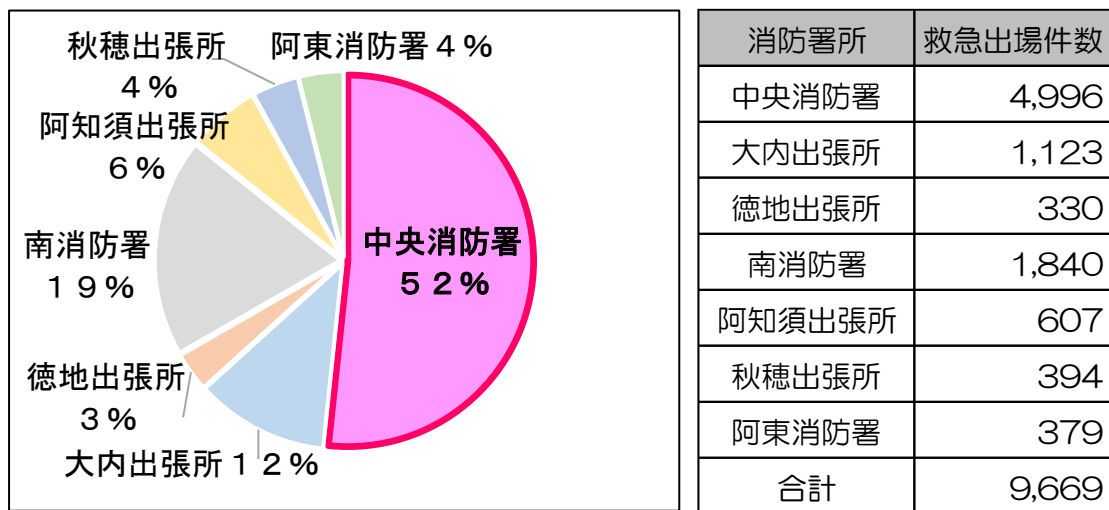
次の図表は、平成30年から令和4年までの5年間の火災発生件数を示したもので、市内全域で年間約65件の火災が発生している状況です。なお、火災対応は災害種別（普通建物、中高層建物、林野、車両、その他）及び出場区域等によりパターン化した複数の署所の組合せによる出場体制で対応しており、山口地域北部・徳地地域・阿東地域は中央消防署が、山口地域南部・小郡地域・秋穂地域・阿知須地域は南消防署が、全ての事案に出場しています。



③ 救急出場件数

次の図表のとおり、中央消防署は全出場件数のうち約半数の5,000件に出場しており、大内出張所と併せた2署所で全体の64%の救急事案に対応するなど市街地を広域的に管轄しています。

消防署所の救急出場件数及び割合（令和4年）

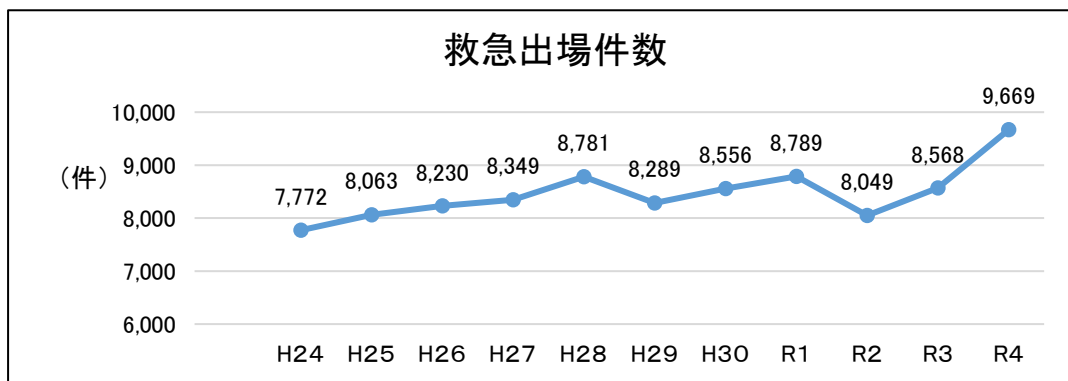


2 中央消防署の課題

(1) 救急出場件数の推移

次の図表のとおり、本市の過去10年における救急出場件数の推移を見ると、平成29年と令和2年に減少したものの、令和4年には過去最多となる9,669件を記録し、10年で1,897件、24.4%増加しています。また、高齢社会を背景として、救急搬送における高齢者の割合は6割に及んでおり、今後も増加傾向で推移することが見込まれます。

こうした市内の救急需要に適切に対応するため、救急隊3隊を配置する中央消防署の中心機能を維持していくことが求められます。



(2) 施設の老朽化・狭隘化

中央消防署を含む消防本部庁舎は、昭和50年に現在地に新築移転し、竣工から48年が経過していることから、老朽化により、建物のクラックや、衛生、空調、電気設備等に不具合が生じています。

あわせて、緊急車両の大型化に伴う車庫スペースの狭隘化など、多くの課題を抱えている状況です。

(3) 社会情勢と環境変化

少子高齢化の進展に伴う来庁者の高齢化や、政府が推進する男女共同参画、女性活躍推進等による女性の社会進出等に対応するためには、バリアフリー対策や女性専用スペースの確保等、消防庁舎の施設及び設備等のハード面における環境の整備が必要です。

また、近年の災害は複雑化・多様化するとともに大規模化してきており、特に東南海地震等も想定されていることから、こうした大規模災害時においても災害活動拠点施設としての業務継続が可能な性能を有した建物及び設備について検討を行う必要があります。

(4) 急傾斜地対策

現在、市において中央消防署敷地の北東側にある急傾斜地について、擁壁による崩壊対策工事が計画されている状況です。この工事により、敷地内の施設である点検・訓練用の防火水槽及び訓練棟としての機能継続が難しくなります。

(5) 防災教育施設としてのニーズの高まり

県庁や県警本部などの周辺施設とともに小学校等の社会見学ルートの一つとして、年間約30件、延べ2,300人近い来庁があり、消防・防災教育施設としてのニーズも高くなっています。

3 基本方針

(1) 施設整備の方向性

①整備位置

災害対策機能の強化等の観点から、消防本部や市長部局とのより一層の連携・協力による相乗効果が期待できることから、現在地に整備を行います。

②整備方法

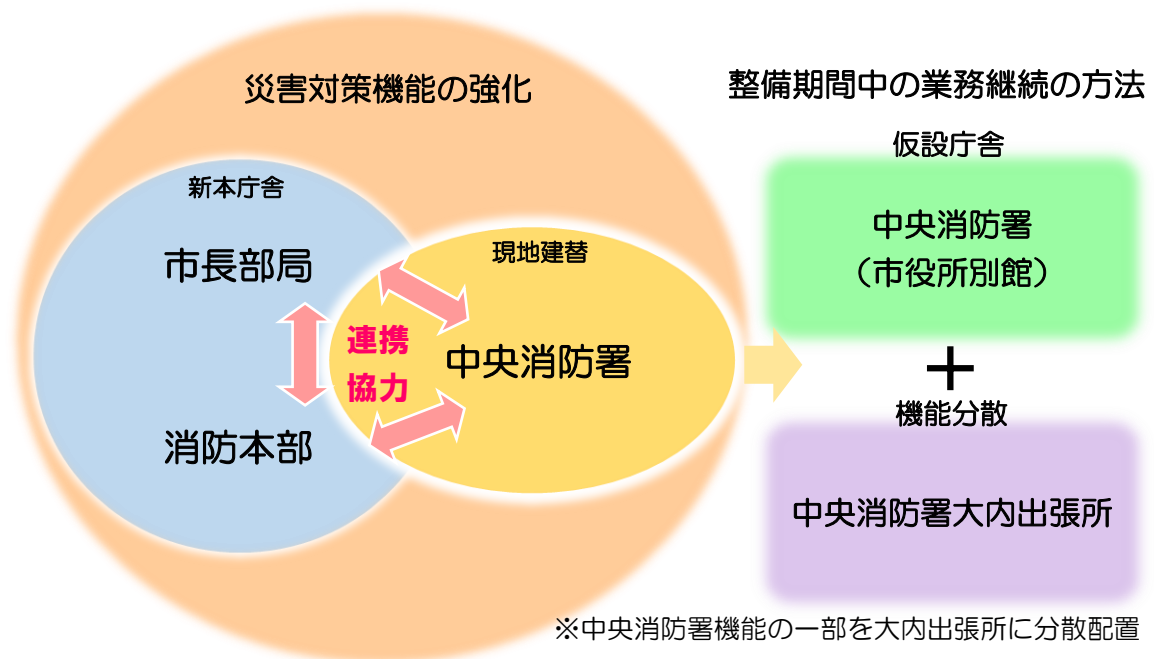
老朽化、緊急車両の大型化等に伴う狭隘化などの課題解消を図るため、建替整備とします。

③整備期間中の業務継続の方法

山口市民の生命、身体及び財産を各種災害から守るため、建替整備期間中の消防・救急業務の継続については、現在地における敷地の状況、また、コスト抑制の観点から、市役所別館（現教育委員会庁舎）を一部改修し仮設庁舎として活用することにより、災害対策機能を確保します。

また、中央消防署機能の一部を中央消防署大内出張所に分散配置することとします。

〈施設連携イメージ〉



(2) 施設整備の考え方

① 消防力を最大限発揮できる施設

管轄区域全体を俯瞰し、消防需要に適切に対応できる人員・車両・機材を配置でき、災害対応力向上のための訓練機能を有し、さらに防災意識の向上を図るため市民も利用、体験できる施設とします。

② あらゆる災害に耐える強靱な施設

地震等の大規模災害の発生時においても、市民の安全・安心を守る消防活動拠点として、あらゆる災害に耐える強靱な施設とします。

③ 人に優しい施設

来庁者や見学者など市民の皆様が利用しやすく、また当直する職員も働きやすい人に優しい施設とするため、ユニバーサルデザインの考え方に基づいた施設とします。

④ 環境と景観に調和した機能的で経済的な施設

周辺地域の自然環境や景観に調和し、効率的で高い機能性を有するとともに、ライフサイクルコストを見越した高い経済性を持ち合わせた施設とします。

4 庁舎規模及び配置

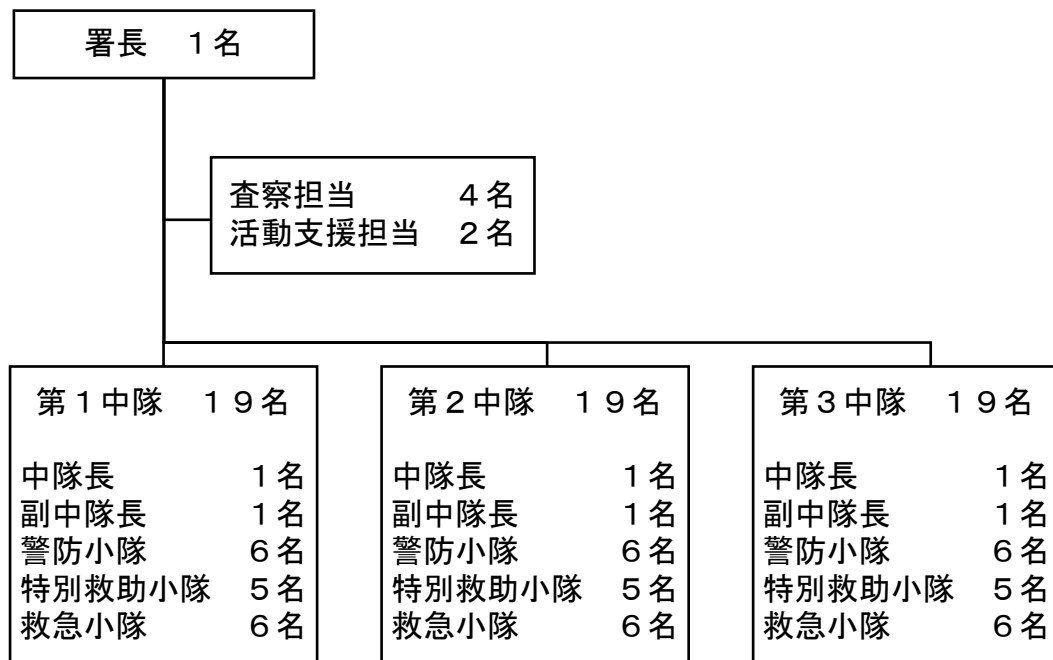
(1) 整備に係る基本条件

組織体系や配置職員数、配置予定車両数、本市の消防署所の中心的な役割を担う中央消防署として必要な機能など、整備に係る基本条件を整理した上で、総務省「起債許可標準面積算定基準」や国土交通省「新営一般庁舎面積算定基準」などの基準を参考とし、近年建設された他市消防庁舎事例の状況を加味して、新庁舎の諸室構成及び規模を算出します。

① 配置職員数

現在の中央消防署配置職員数を基本とします。なお、配置職員数については、将来的な消防需要や署所の適正配置等を総合的に勘案し、引き続き検討を進めます。

■現在の配置職員数（令和5年4月1日現在）



署長 1名、査察担当 4名、活動支援担当 2名

交替制勤務（中隊長・副中隊長・警防小隊・特別救助小隊・救急小隊）57名

合計 64名

② 配置予定車両数

現在の配置車両数を基本とします。なお、車両数については、新本庁舎へ集約移転する消防本部車両の配置計画を踏まえ、引き続き検討を進めます。

■中央消防署

種別	全長 (cm)	全幅 (cm)	全高 (cm)	車両重量 (kg)	現所管
救助工作車	790	236	333	10970	中央
化学消防ポンプ自動車	748	230	315	8260	中央
はしご付消防自動車	1057	249	370	21060	中央
水槽付消防ポンプ自動車（1号）	703	220	283	6890	中央
消防ポンプ自動車（2号）	665	220	279	5570	中央
高規格救急自動車（1号）	565	190	250	2770	中央
高規格救急自動車（2号）	567	189	249	2810	中央
高規格救急自動車（3号）	565	189	249	2790	中央
積載車	468	169	245	1890	中央
広報車	441	169	167	1280	中央
林野火災用資材搬送車	504	174	261	3760	中央
水難救助用資材搬送車	538	188	244	2450	中央
本部広報車（指揮車）	428	169	204	1490	本部
高規格救急自動車（予備2号）	565	189	249	2860	本部

■新本庁舎 ※新本庁舎へ9台を配置予定

種別	全長 (cm)	全幅 (cm)	全高 (cm)	車両重量 (kg)	現所管
本部1号車	444	172	149	1260	本部
本部2号車	461	175	161	1480	本部
査察1号車	354	162	166	970	本部
査察2号車	441	169	149	1180	本部
機動連絡車	501	197	225	2740	本部
救急普及啓発1号車	469	169	240	1710	本部
団本部1号車	540	188	245	2760	本部
防火広報車	469	169	240	1720	本部
婦人防火広報車	339	147	190	930	本部


(2) 中央消防署庁舎の主な機能

① 災害対応機能

①車庫

□現状
 車両の大型化により、車両同士の間隔が狭く、出場時における安全確保が十分とはいえません。


■整備方針
 車両同士の衝突防止及び、出場時における安全確保のため、車両相互間の空間を十分確保するとともに、近年の車両大型化に対応した車庫を整備します。



②出場準備室 新設

□現状
 出場準備室は設置していません。
 車庫内において防火衣や装備品の着装を行っており収納スペースも狭く、安全・迅速な出場に支障をきたす可能性があります。


■整備方針
 災害出場に必要なとなる装備品等の保管や、それぞれの災害に対応した装備を着装するための出場準備室を新たに整備します。また、指令端末及び大型モニターに消防指令センターから送信される災害情報等を出場隊員へ伝達し、複雑多様化する災害に迅速・的確に対応します。



③救急消毒室及び救急資器材倉庫

□現状
 換気状態の悪い消毒室内に救急資器材の収納棚が設置されています。また、収納スペースの不足により資器材を分散して保管している状況です。

■整備方針
 救急資器材の洗浄や消毒作業を行うほか、薬剤及び救急資器材を十分収納することができる収納棚を整備します。また、隊員間の感染防止を図るため、入室までの動線に配慮します。



④ 資機材倉庫

□現状

多種多様な災害対応資機材により、保管場所のスペースが不足しています。また、車庫から離れた位置にあるため、資機材の積み下ろしに時間を要しています。



■整備方針

複雑多様化する災害に迅速に対応するため、車庫に隣接した資機材倉庫を整備します。また、災害種別ごとに資機材を分別棚等で管理できるよう十分なスペースを確保します。

⑤ ホース収納棚

□現状

車庫の一角にホース収納棚及び移動式のホースラックを設置しています。



■整備方針

ホース収納棚は、取り出し及び収納が容易に行える高さに配置し、直射日光に当たらないような位置に整備します。

⑥ 訓練施設

□現状

鉄骨造3階建の訓練棟により、各種災害想定の実施を行っています。しかし、2階部分をトレーニング室として利用しているため、屋内での放水訓練が実施できない状況です。



■整備方針

より実践的な訓練が可能となる訓練施設を整備するとともに、防災意識の向上を図るため市民も利用、体験できる施設とします。また、トレーニング室については、災害出場に遅延が生じないように、庁舎内に設置することとします。



⑦ホース等洗浄、乾燥設備

□現状

災害現場で汚れたホースは、ホース洗浄機で洗浄し、訓練棟の側面に吊るして乾燥しています。防火衣については、専用の洗濯機や乾燥設備は設置していません。



■整備方針

職員の負担軽減を図るため、電動巻上式のホースリフターを設置するとともに、近くにホース洗浄機を設置します。また、災害時に使用し汚染された防火衣等の洗濯・乾燥が可能となる設備を整備します。



⑧防火水槽

□現状

地下埋設水槽を訓練用として設置しています。また、消防ポンプの放水試験を実施するための放水壁は設置していません。



■整備方針

近隣の火災にも対応するため、消防水利の基準に適合した地下埋設40立方メートル以上の耐震性防火水槽を設置します。さらに、放水試験に対応した放水壁を設置し、試験で使用した水が防火水槽に戻る構造とします。

⑨危険物保管庫

□現状

訓練棟の1階に危険物保管庫を設置し、主に航空燃料（ドラム缶3本600リットル：第2石油類）を貯蔵しています。



■整備方針

引き続き、山口県消防防災ヘリコプターが使用するジェット燃料等を安全に保管できる施設を整備します。



⑩非常用電源

□現状

非常用電源として、自家発電設備を設置しています。排気ガスが滞留しやすい位置に設置されており、また仮眠室に近いことから騒音による影響があります。



■整備方針

排気ガスの滞留を防ぐため、風通しの良い位置に設置するとともに、周囲への騒音に配慮した構造とします。

また、太陽光発電設備を設置し、自然エネルギーの有効利用を図ります。

② 執務環境

①事務室

□現状

職員数に対して事務所スペースが狭く、3人で一つの机を使用しているため、個人の収納スペースが不足しています。また、来庁者対応のための協議スペースが確保できていない状況です。



■整備方針

勤務する職員が働きやすく、事務の効率化を図る動線を確保するなど、災害対応（出場）に配慮した十分なスペースを確保します。また、来庁者用の協議スペースを配置します。



②講堂・会議室

□現状

庁舎3階に講堂及び会議室（災害対策室）を配置しており、各種講習会や研修会及び会議を実施している状況です。



■整備方針

各種講習会や会議等に使用するため、十分な広さを確保するとともに、間仕切りにより部屋の広さを変更できる仕様とし、多目的に活用できる機能を整備します。



③書庫

□現状

庁舎3階の2つの書庫及び事務所内のスチール棚に保存文書を分散して保管しています。



■整備方針

可動式の書架を配置し、効率よく保存文書が保管できる書庫を整備します。



④食堂・待機室

□現状

24時間勤務のため、待機室（休憩所）を兼ねた食堂を設置しています。しかし、事務所に来庁者の協議スペースが無いため、頻りに協議場所として使用されており、職員の休憩室としての機能が果たせていません。



■整備方針

職員数に適した広さの食堂・待機室を整備し、複数人での調理が可能な厨房設備を設置します。

⑤個室仮眠室（男性用） 新設

□現状

個室ではなく、縦型の共用二段ベッド形式となっており、災害出場時など、梯子から転落するリスクがあります。また、上下での室内温度差が激しく仮眠に影響が出ている状況です。



■整備方針

出場準備室までの動線や安全性に十分配慮するとともに、感染防止やプライバシー保護の観点から、各部屋に更衣スペースを有した個室タイプの仮眠室を整備します。

⑥個室仮眠室（女性用） **新設**

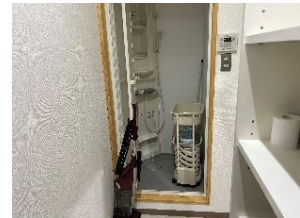
□現状

個室仮眠室はありません。
女性職員の専用室内に横型の共用二段ベッド（2人分）を設置しています。また、同室には更衣室、シャワー室及び洗面所を整備しています。



■整備方針

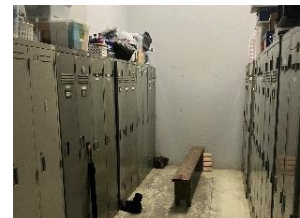
女性職員専用スペースとして、洗濯室、洗面所、浴室（シャワー含む）及び各部屋に更衣スペースを有した個室タイプの仮眠室を整備します。



⑦更衣室

□現状

コンクリートの床にスチール製の更衣ロッカーを設置しているため、湿気が多く、衣類の衛生的な保管に支障が生じている状況です。



■整備方針

仮眠室の各部屋に十分な荷物を収納することが可能な更衣ロッカーを設置します。また、日勤者においても職員数に応じた衛生的で適切な広さの更衣スペースを確保します。

⑧浴室・洗濯室・洗面所・トイレ等

□現状

浴室については、湿気が溜まりやすく、狭隘で複数の職員が同時に利用することができません。また、女性専用トイレについては、2階と3階に各1か所のみを設置となっています。



■整備方針


災害対応の長期化にも対応できるよう、同時に複数名が利用できるシャワー室及び洗面所を確保するとともに、洗濯乾燥機を置くための十分なスペースを確保し、衛生的かつ機能的な設備を整備します。また、各階に適正な数のトイレを設置します。



⑨ 出場用直階段 **新設**

□現状
職員専用の階段は設置しておらず、災害出場時に来庁者と職員が交差することにより、安全の確保が図れていません。

■整備方針
出場準備室へ通じる職員専用の直階段を設置することにより、災害出場時に来庁者と交差することなく、最短の出場が可能となる動線を確保します。




③ バリアフリー機能

① 多目的トイレ **新設**

□現状
多目的トイレは設置していません。


■整備方針
各階にユニバーサルデザインに配慮した誰もが使いやすい多目的トイレを整備します。



② エレベーター **新設**

□現状
エレベーターは設置していません。

■整備方針
庁舎のバリアフリー化を進める上で必要な施設となるため、適切な規模のエレベーターを整備します。



③身障者等専用駐車場 **新設**

□現状
身障者等専用駐車場は設置していません。


■整備方針
ユニバーサルデザインに配慮し、車いす利用者等に対応した駐車区画を整備します。

④ その他の機能

①防災教育機能 **新設**

□現状
来庁者が防火について体験することができる機能はありません。

■整備方針
来庁者が迷路の中で避難方法を学ぶことができる煙体験室や、消火体験室を訓練棟に整備するとともに、講堂には大型モニターを設置するなど、防災教育機能を併設します。



(3) 必要諸室面積

※消防本部・通信指令室エリアを除く

	室名（仮）	①現庁舎面積 (㎡)	②必要面積 (㎡)	面積増減	備考
				① - ② (㎡)	
中央消防署	事務室	137.48	160.00	22.52	
	講堂・会議室	175.78	175.00	▲0.78	
	書庫	17.49	50.00	32.51	
	食堂・待機室	63.69	85.00	21.31	
	仮眠室	78.10	320.00	241.90	個室仮眠室 新設
	更衣室	56.77	15.00	▲41.77	
	浴室・洗濯室・洗面所	17.50	65.00	47.50	
	車庫	368.26	500.00	131.74	
	出場準備室	0	85.00	85.00	新設
	倉庫・部品庫	84.97	130.00	45.03	
	救急消毒室	15.45	30.00	14.55	
	救急資器材庫	13.25	30.00	16.75	
	トレーニングルーム	55.00	60.00	5.00	
	共用部分 玄関・廊下・階段・EV 多目的トイレ等	215.70	700.00	484.30	出場用直階段 多目的トイレ EV 新設
	合計	1,299.44	2,405.00	1,105.56	
付帯施設	訓練棟	160.00	150.00	▲10.00	消火・煙体験室 新設
	ホース等洗浄・乾燥設備				
	防火水槽				
	非常用電源設備				
	身障者等専用駐車場				新設
	駐輪場				
	合計	160.00	150.00	▲10.00	

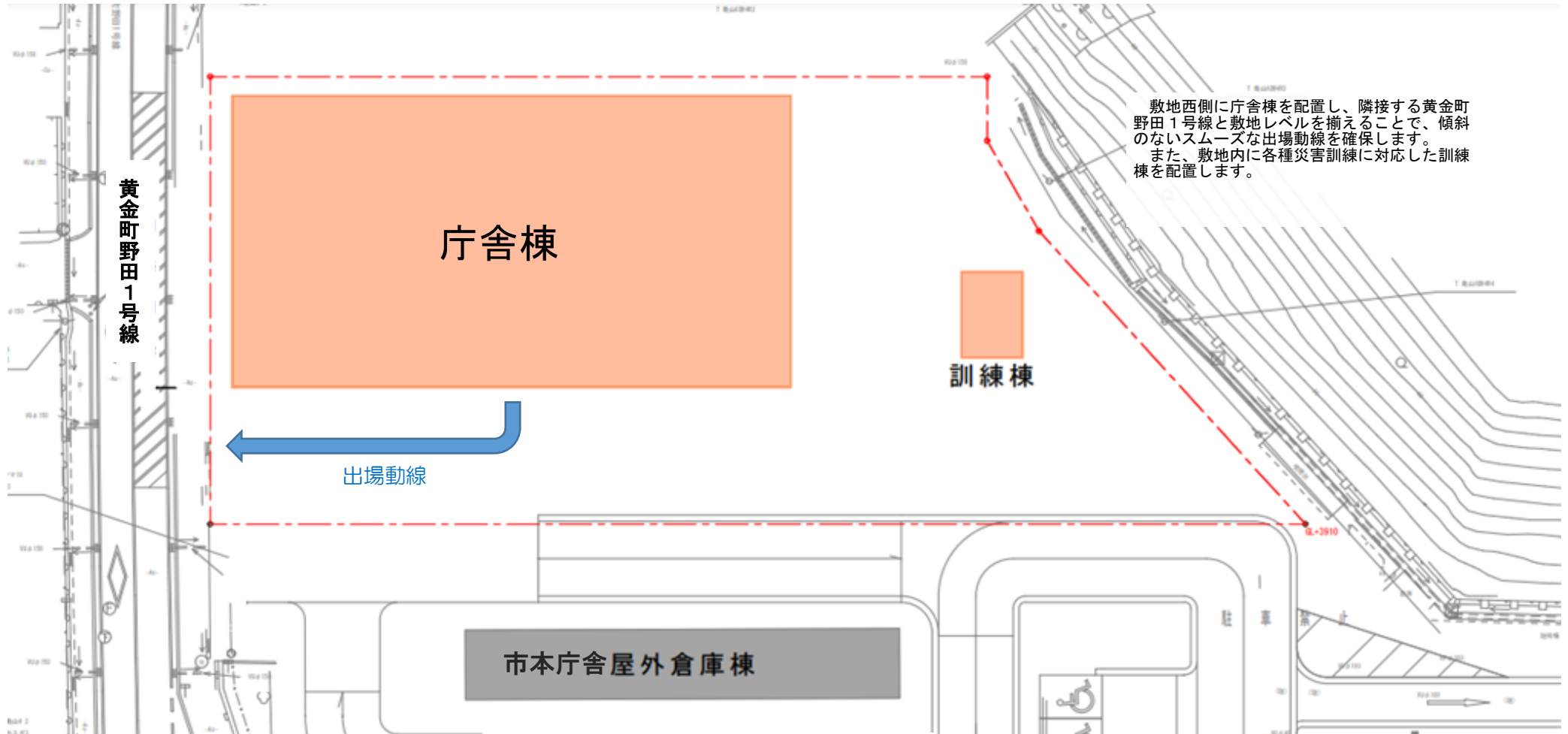
【参考】他市消防庁舎との比較

現在の中央消防署配置職員数と同規模で、近年建設された他市の消防庁舎の概要（署庁舎単独）。

所属別	建築年	庁舎概要			署職員数 (名)
		構造	階層	延床面積 (㎡)	
山口市消防本部 中央消防署	R9 (予定)	鉄筋コンクリート造	3階建	2,555.0 (想定)	64
川口市消防局 東消防署	R5	鉄筋コンクリート造	地下1階 地上4階建	2,999.2	62
加古川市消防本部 東消防署	R4	鉄骨造	3階建	3,052.1	64
高知市消防局 中央消防署	R1	鉄筋コンクリート造	3階建	2,712.2	52
松戸市消防局 中央消防署	H31	鉄筋コンクリート造	3階建	3,316.3	64

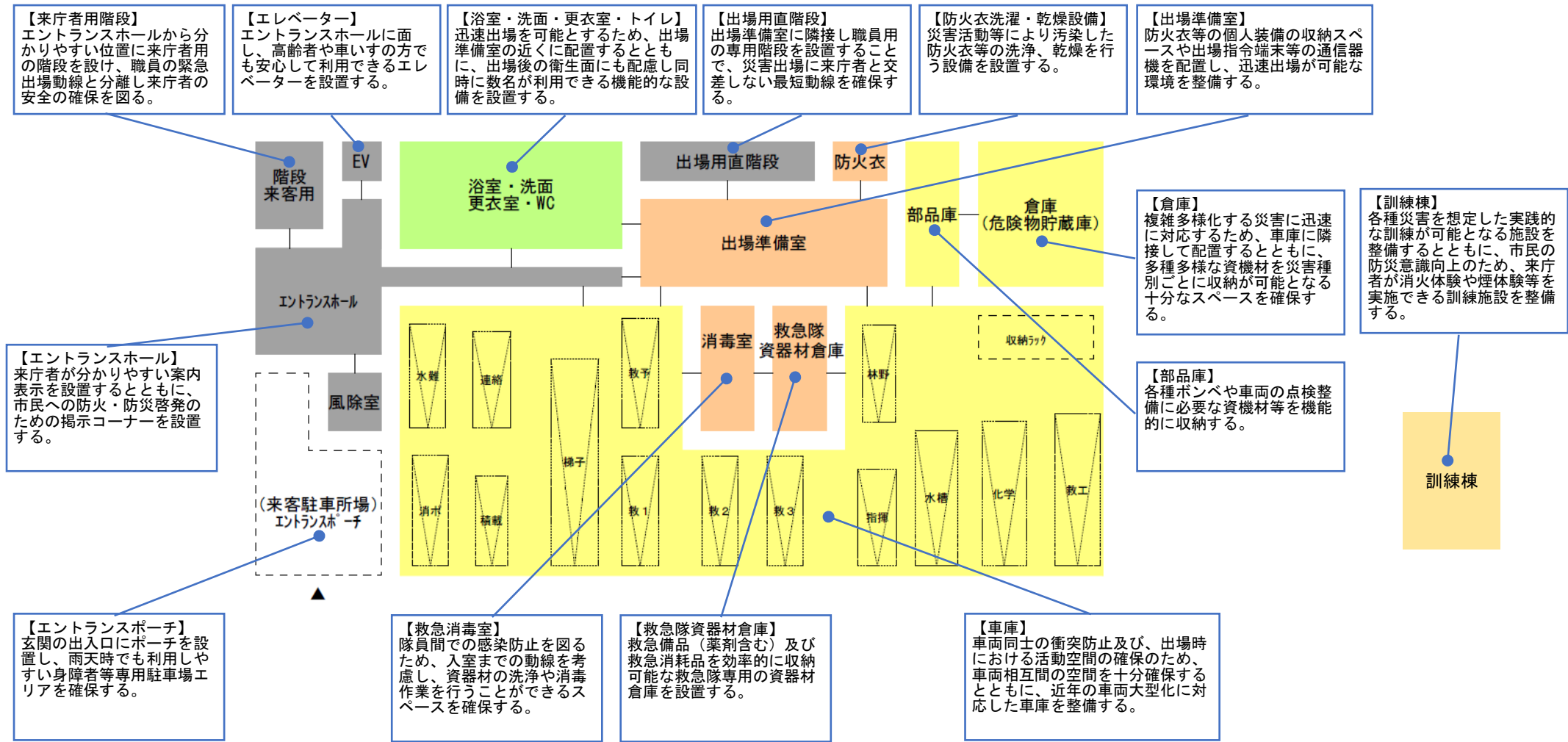
5 配置ゾーニング計画

敷地ゾーニング

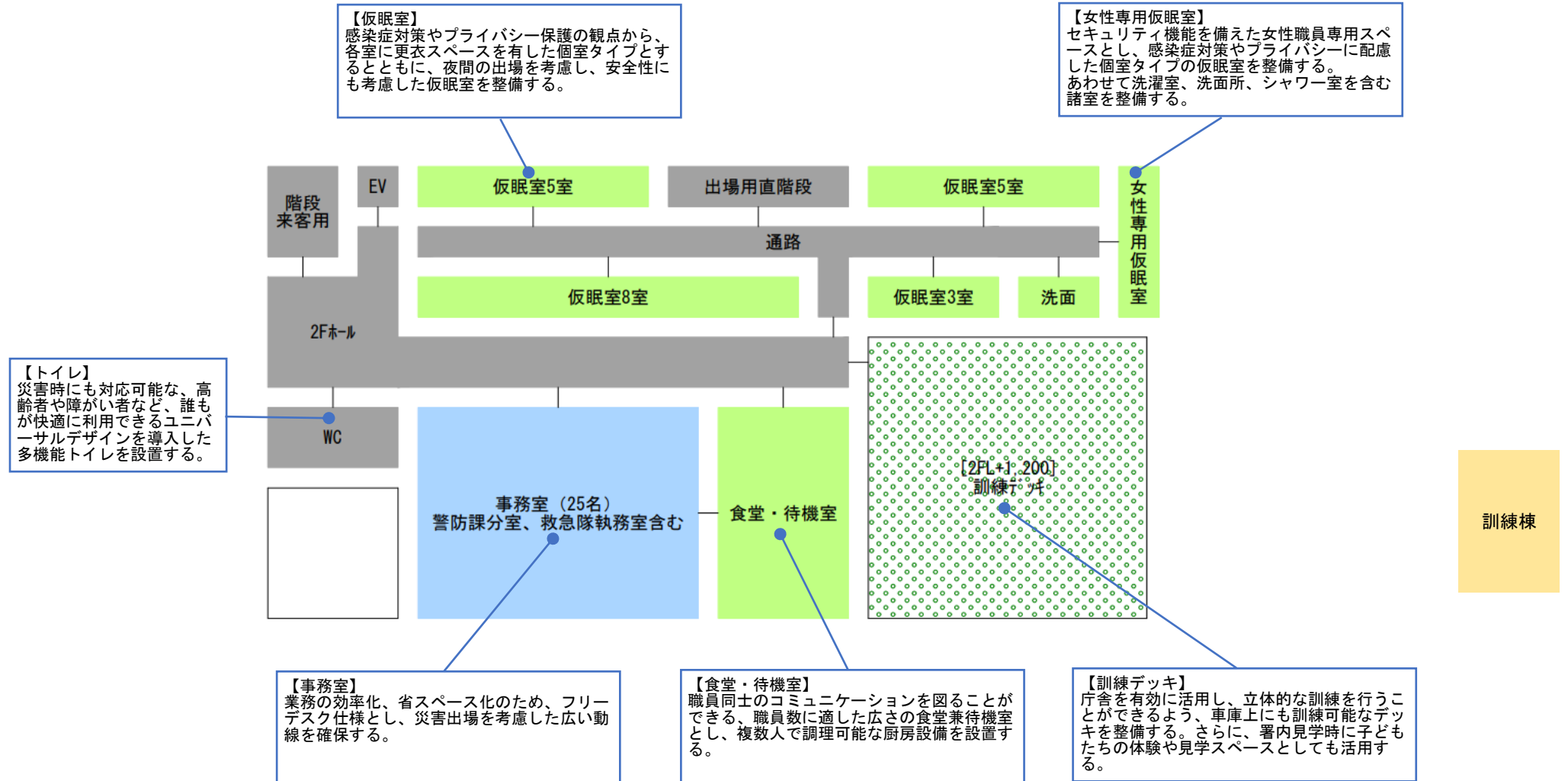


6 平面ゾーニング計画

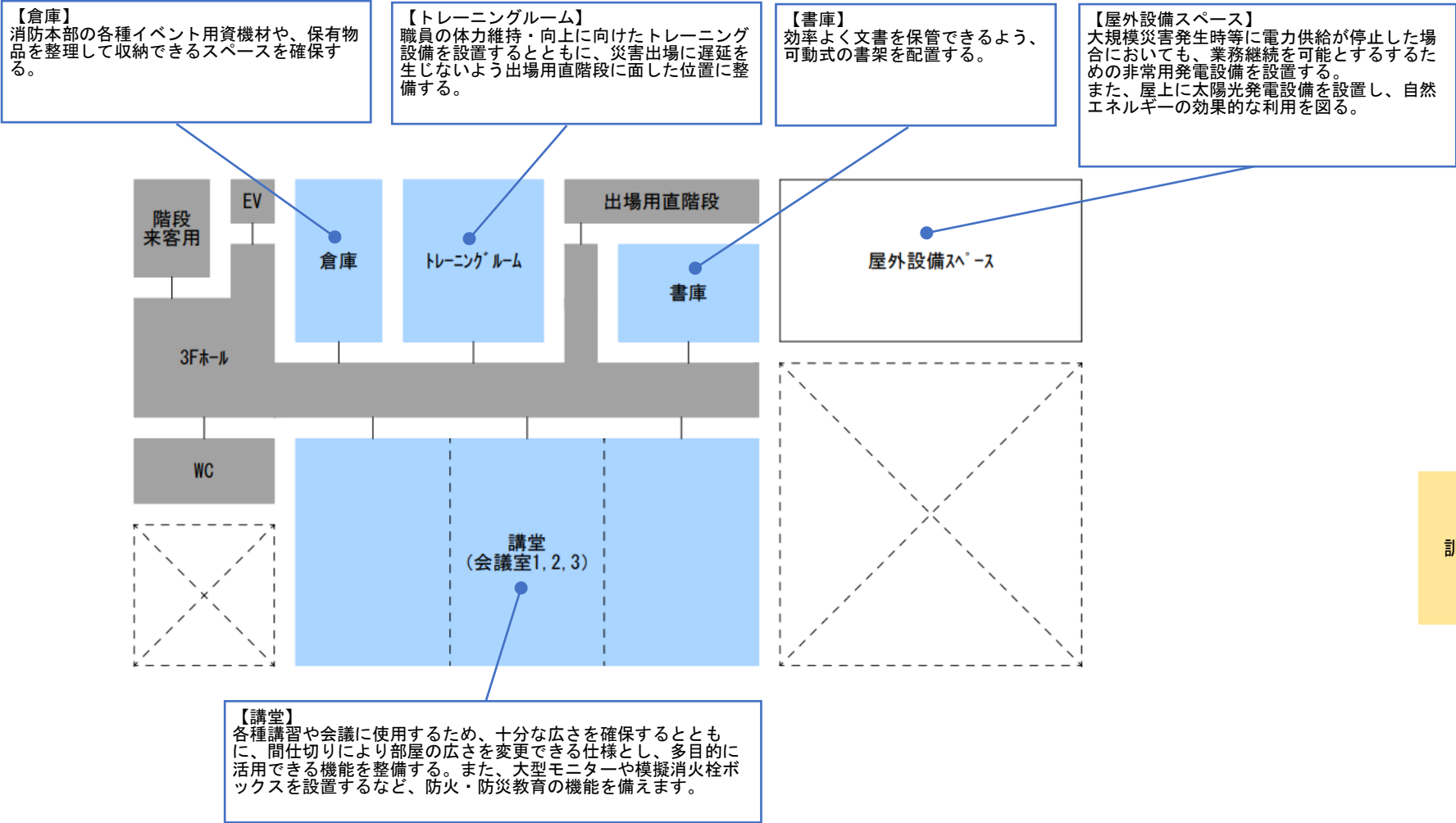
(1) 庁舎1階平面図



(2) 庁舎2階平面図



(3) 庁舎3階平面図



7 想定される整備事業費及び事業スケジュール

(1) 整備事業費

整備事業費約22億円を想定しています。

なお、基本設計等における消防機能の検討状況や、今後の物価高騰の影響等により、整備事業費に増減が生じる可能性があります。

また、財源については、合併推進債を活用する予定です。

(2) 事業スケジュール

事業スケジュールについては、下表のとおり予定しています。

なお、今後の基本設計等における具体的な検討の中で、見直す可能性があります。

	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
基本計画設計	基本計画 基本設計	実施設計			
仮設庁舎改修 大内所含む		設計	改修工事	仮設庁舎運用	
解体工事		設計	解体		
造成設計工事		造成設計		造成工事	
建設工事				建設工事	
				整備完了・移転	